

吟剣詩舞

g i n k e n s h i b u

令和6年度全国吟詠コンクール決勝大会

優勝者インタビュー

東日本大震災からの復興のシンボル、
大熊町交流ゾーンで吟剣詩舞を公演

震災を超える

吟剣詩舞の舞台

吟剣詩舞の故郷

「赤間関」(山口県)

表紙の詩

楠公を詠ず 日柳燕石

日本に 聖人有り

其の名を 楠公と謂う

誤つて 干戈の世に生まれ

剣を提げて 英雄と作る

12

令和6年
師走

震災を超える吟剣詩舞の舞台

2011年3月11日、東日本一帯を突然襲った大地震。

福島第二原子力発電所の事故により周辺の住民は避難を余儀なくされましたが、大熊町も全町民が町内への立ち入り禁止となりました。

それから10年、2021年10月に町の復興のシンボルである「大熊町交流ゾーン」がオープン。

このほどその3周年を記念するイベントとして、「吟剣詩舞 実演と体験会」が開催。

全員とも全国吟詠剣詩舞コンクール優勝者である3人が出演して福島に関連する舞台を披露するとともに、帰還した町民を中心とした観客に詩舞剣舞吟詠を指導、拍手と笑顔に包まれたイベントとなりました。

日時：令和6年10月20日(日)

場所：福島県大熊町交流ゾーン「link大熊 多目的ホール」

主催：大熊町交流ゾーン指定管理者(株)サンアメニティ

後援：大熊町(公財)日本吟剣詩舞振興会



左から五月女凱昂、森田夏星、見城星梅月。この3人は森田さんが率いるVintageAmpsのMV「悪戯のエストーク」での共演に始まり、昨秋の二条城での演舞に続く活動となり、今回から吟剣詩舞ユニット「織Ori」と名付けられた

帰還支援のためのイベントとして 吟剣詩舞公演を企画

日本吟剣詩舞振興会鈴木吟亮理事「かつてこの地域で原子力広報の仕事をしていた関係で、震災には心を痛めておりました。何かしたいとずっと思っていたのですが、最近になって大熊町のAIプロジェクトに参画することになりました。せっかく仕事で来ているので、経産省からこの地域に赴任されている藤田さんに吟剣詩舞のイベントをしたいとお話して実現しました。吟剣詩舞普及のために若い人たちの活動の場を作るといのは私のライフワークですので、これからも続けていきたいです」

経済産業省藤田歩浜通り統括支援員「こちらに駐在して企業誘致等していますが、避難された方の帰還支援ということで、イベントをやって関係交流人口を増やす活動もしています。それでの交流ゾーンの指定管理者であるサンアメニティさんから3周年記念イベントの話があったので、帰還された方および周辺に避難されている方も来て楽しんでもらえるイベントということで、吟剣詩舞をやっていただくことにしました。大熊町の役場は一時会津若松市に移転していましたので、白虎隊など会津に関する演目をやっていただけでもありがたいです」

大きな反響を呼んだ体験会

公演は14時から開催。居住者数か

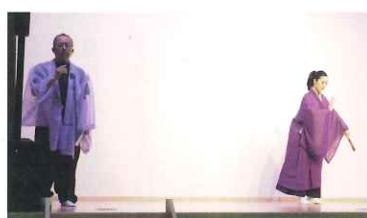
らしてどれくらい観客が来てくれるのか心配されましたが、周辺地域では吟詠の流派も活動しており、予想以上の方が詰めかけました。まず

吟剣詩舞 熱演に拍手

大熊町交流ゾーン3周年企画
大熊町交流ゾーンの吟詠や剣舞、詩舞の3周年企画「吟剣詩舞」の熱演に拍手。会場には多くの観客が詰めかけ、観客も盛んに拍手を送ります。



体験会で扇子の使い方などを指導する見城さん。客席でも希望者には扇子が貸し出され、皆熱心にお稽古に励んだ



オープニングで琵琶吟のように『祇園精舎』を吟じた鈴木吟亮理事(左)と美しい詩舞で魅せた見城星梅月さん



公演の翌日には福島民報に写真入りで記事が掲載された

3年前の10月17日に宿泊温浴施設なども備えた交流ゾーンがオープン。そのうちの「link大熊多目的ホール」で公演が開催された



鈴木吟亮理事が開会の辞。続いて主催のサンアメニティの吉田雅統括マネージャーが「大熊町が10年かかってこの交流ゾーンができ、早くも3年経ちました。企業誘致などで努力されている経済産業省からのご紹介があり、この機会に吟剣詩舞を実演していただくことになりました。大熊町の伝統を絶やさないという意味も込めて伝統芸能を心ゆくまで楽しみ、体験してください」と挨拶しました。

鈴木理事と見城さんの『祇園精舎』に続き、森田さんが中心となつて構成吟詠に制作した「志は時を超えて」の実演。奥州に所縁の深い源義家、会津藩の白虎隊、新島八重といった

福島県の歴史を辿る内容で、勇壮、華麗な舞台に初めて吟剣詩舞に触れた観客も盛んに拍手を送ります。

3人の挨拶に続いて体験会の開催。事前に申し込んだ方が前に出てまず見城さんが詩舞を指導。剣舞を五月女さん、吟詠を森田さんが指導しますが、南相馬市で詩吟に励んでいる西吟梢さんが民謡の『相馬の秋』を披露。あつという間に2時間が経ち、最後は五月女さんが「レッツ エンジョイ吟剣詩舞! ハッ!」と叫んで終了。その後も多くの方が3人に熱心に質問したり記念写真を撮ったりして、オープン3周年の記念すべきイベントを堪能しました。



南相馬市で詩吟の活動をしている西吟梢さん(天山流)は体験会で民謡の『相馬の秋』を披露、誂い方を指導した

「志は時を超えて」プログラム

1.『オープニングテーマ』

舞：五月女凱昂、見城星梅月、森田夏星

2.『吹く風を』(源義家)、『八幡公』(頼山陽)

剣舞：五月女 吟詠：森田

3.『白虎隊』(佐原盛純)

独吟：森田

4.『明日の夜は』(新島八重)

伴奏：早淵良宗 詩舞：見城 吟詠：森田

5.『若松』(徳富蘇峰)

剣舞：五月女 詩舞：見城 吟詠：森田

白虎隊と新島八重に扮して福島の歴史を表現した「織Ori」の3人

森田夏星「吟剣詩舞を通して皆さんにワクワクした気持ち届けられたらなと思って今回の作品を作らせていただきました。体験会も楽しんでいただいでうれしい限りです」

見城星梅月「居住者の方々に少しでもパワーをお届けしたいと思っていましたが、体験会でも思った以上にリアクションがあり、ここで吟剣詩舞を披露した甲斐がありました」

五月女凱昂「泣きながら観てくれた方、元気になったよと握手してくれた方など本当に興味を持って楽しく過ごしてもらった印象で、これからもこうした活動を続けたいです」



吟剣詩薈

g i n k e n s h i b u

日本財団助成事業

第4回

宗家・会長会議を開催

吟剣詩舞の発展と普及のために
何を為すべきか

第6回

東日本聖吟士会吟詠と
研修の集い

日本財団助成事業

全国少壮吟詠家

選考審査会「研修会」開催

表紙の詩

寒梅 新島襄

庭上の寒梅

笑つて風雪を侵して開く

争わず又力めず

自ら百花の魁を占む

3

令和7年
弥生



令和7年度
第6回東日本聖吟士会吟詠研修会
主催 東日本聖吟士会

第1部 県・都総連模擬吟詠者の吟詠と研修

神奈川県総連・土田谿耀(谿月流)さんの例 吟題:『汪倫に贈る』

6人の一般吟詠家が吟詠コンクール指定吟題から模擬吟詠。聖吟士が2人ずつ寸評を加えた。

寸評:清水錦洲聖吟士「出て来る時にこちらを見ていましたが、マイクの真ん中、手を握る部分を見た方が綺麗に見えます。大変いい声ですが、リズムがすべて同じように感じる。情景を浮かべながら素読の練習をし、気持ちを入れながら読んでください」

寸評:佐々木翠鵬聖吟士「立ち姿がとても綺麗で良かったです。最初の『りはく』は頭高ですが、母音の『い』をきちっと出すこと。そうすると五の音がしっかり出ます。『のって』や『ほっす』は促音もしっかり言葉になっているということを意識してください」

第2部 聖吟士吟詠とワンポイントアドバイス

佐々木翠鵬聖吟士の例 『武野の晴月』

聖吟士が吟詠コンクールの指定吟題10題と他2題を吟じ、アドバイスを述べた。「とても綺麗な漢詩で風景が見えるようですが、私が苦手とする『い』の高音が多い吟題でもあります。『い』は臍下丹田に力を入れるというお話もありますが、私なりに頑張ってみました。それと『ん』も多いですが、口を軽く閉じないと『う』に聞こえてしまうのでそのあたりも気にしてください」



質疑応答 ビブラートについて

「ビブラートのクセがとれない」という質問に対して池田会長が「『舟に乗って』ならば『て』を最初ぐっと出して、それから少し振れる程度。ちょっとやってみてください」とその場で詠ってもらい、前山聖吟士が「最初から振れてしまっています。まず伸ばすことを意識して」などとアドバイス

土田さんの研修の印象

「マイクを見ながら出るというのは考えたことがなくて勉強になりました。それと素読の仕方が全然できていないということも実感しました。その他のこともこれから練習していくうえで参考にしてお稽古に励み、財団の全国コンクールで高い位置で入賞したいと思います」



特別企画 聖吟士による吟詠歌謡

吟詠の間に今様が入るなど、吟詠歌謡を7題で剣詩舞社中とコラボレーション、6題を聖吟士の独吟・独唱で構成した。

剣詩舞社中とのコラボレーションとして紫虹流吟詠詩舞道会の詩舞と今村契鉅聖吟士の吟詠歌謡で『古城』。前山紫峰聖吟士の吟と歌で『白虎隊』を舞った五月女凱昂さんは、模擬吟詠で『山の夜』も詠った



第6回東日本聖吟士会吟詠研修会

令和7年度
第6回東日本聖吟士会吟詠研修会
主催 東日本聖吟士会

12人の聖吟士と共演した剣詩舞社中の皆さん。前列左から梶浦麗修、佐々木翠鵬、伊藤契麗、中野吟紫、奥村精輝、小林北鵬、池田嶺煌、薦田南尚、清水錦洲、前山紫峰、田中国臣、今村契鉅各聖吟士



第6回東日本聖吟士会吟詠と研修の集い

吟詠家に大人気の研修会が今年も松の内に開催

東日本の吟詠家のレベルアップを図るため、平成29年に第1回研修会を実施した東日本聖吟士会。今年も昨年同様、松の内の5月に横浜市鶴見で第6回目の「吟詠と研修の集い」を開催しました。日本吟詠詩舞振興会主催の吟詠コンクールに照準を合わせ、指定吟題の模擬吟詠や聖吟士による模範の吟とアドバイス、さらにアトラクションとして剣詩舞社中ともコラボレーションした吟詠歌謡を実施。満員札止めの会場を埋めた吟詠愛好家の熱い期待に応える年始の行事となりました。

日時:令和7年1月5日(日)

場所:神奈川県横浜市・鶴見公会堂

主催:東日本聖吟士会

後援:(公財)日本吟詠詩舞振興会、東日本地区連絡協議会、

神奈川県吟詠詩舞道総連盟

吟界の最高峰、少壮吟士は65歳定年制ですが、「卒業後も吟詠の普及・発展に貢献したい」と、東日本少壮吟士会OB・OGにより平成28年に聖吟士会が発足。翌年から一般吟詠愛好家のための研修会を実施してきました。

6回目の今回、約570席の会場は早々と満員御礼となる人気イベントに成長。恒例の模擬吟詠や聖吟士による模範吟とともに、今年は初の試みとして吟詠歌謡を実施

施。87歳の薦田南尚聖吟士は『月冴えて』、86歳の小林北鵬聖吟士は藤上南山作『小手鞠の歌』を見事に披露。

さらに石川県珠洲市出身で、昨年は能登半島地震で自宅が倒壊、研修会に来られなかった前山紫峰聖吟士が自作の『それでも生きる』を熱唱。最後は池田嶺煌会長が『夫婦一生』『松竹梅』で締めて、吟詠愛好家の熱に彩られた年初の一大行事が終幕となりました。

池田嶺煌聖吟士会会長

吟詠愛好家の励みになる活動が続けたい

「お陰様で満席となり、希望者もかなりお断りしたような状態です。神奈川県総連の方々にも頑張ってもらって感謝しています。吟詠歌謡は聖吟士会では初の試みでしたが、アトラクションとしてならいいだろうということで、財団にもお許しただいて実現しました。家族や夫婦円満のため『夫婦一生』を選んで良かったです。これからは近畿や西日本にも聖吟士会のようなものができて、全国の吟詠愛好家の方々の励みになるような活動ができればと思います」

